

主催：第4回 NPO 八王子会議実行委員会

〈構成〉 NPO 法人八王子市民活動協議会
NPO 法人八王子ワークセンター
NPO 法人八王子子ども劇場
NPO 法人ポケットパーク
エコショップ元気広場
八王子市市民活動推進部協働推進課
八王子市市民活動支援センター

テーマは「総働 in 八王子～2020年あなたのNPOはありますか?」、講師は、IIHOE [人と組織と地域のための国際研究所] 代表者の川北秀人氏。参加者は約100名でした。

【企画の概要】

まずはじめに「少子多老化に備えて今、NPOがなすべきこと-協働2.0 総働と小規模多機能自治で地域と暮らしを守り抜く-」とのテーマで1時間半ほど川北氏による基調講演があり、5-6人ずつ17-8テーブルに分かれて1回目のワークショップ(15分)をし、さらに講師の話が1時間半ほどあって2回目のワークショップ(30分)と、間に休憩を挟み計4時間の濃密な時間でした。

【川北氏の基調講演】

少子化、高齢化(講師は「多老化」と表現)が急速に進んでいく中、社会はどのように変わっていくのだろうか、近未来2020年(東京オリンピックの年)を中心に、未来の状況をいくつかの関連項目について具体的な数値でとらえ、未来から現時点に立ち返ってこれから何をどうすべきかを考えていこうというものでした。

以下、当日のパワーポイント資料から、今回強く印象に残ったところを筆者の理解したところから従って感想も交えていくつか書いてみました。

(●部分は講師のパワポ文言、★部分は筆者のコメント/感想)

なお、当日講演で使用されたパワーポイントの資料は、すべてIIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] のホームページ川北氏のブログ (<http://blog.canpan.info/dede/>) にアップされていますので、正確に内容を知りたい方はそちらをご覧ください。

●近未来には、どうなる? それにどう備える?

—2020年(東京オリンピックの年)のあなた、あなたの家族の年齢は?

そのころどうなっているか? それに対してどのように備える?

—2020年の地域はどうなっている?

隣人は何歳? どうなっている? 地域にどう備える?

—2020年の八王子市はどうなっている?

独居の後期高齢者はどのくらい? 出生希望数? 子育ての不安? 若者が世界に通用するか?

空家率は? 団体としてどう備える?

【1回目のワークショップ】

参加者は、配布された A3 用紙に上記事項について具体的に記入する作業を行いました。

★身近なところから始めて、未来のある時点をとらえて具体的に考え文字にしてみることで、問題を自分に引き寄せてとらえることになり、課題・問題のリアリティが高まると感じました。

【引き続き川北氏の講演】

◎あなたは「社会を変えたい」のか、「社会に良さそうなことをしたい」だけなのか？

★後者はボランティアのスタンス。できるときにできることをすればよい、何時やめてもよいし、またやめることが許される。これに比べ市民活動（前者）は、社会性、社会変革性を持ったものであり、社会的責任を伴うものであるという趣旨だと理解しました。

◎私たち（私たちの活動）を待つ人は、どこにどれだけいるのか？ その人にいつ、どのように届けるのか？ 私たちはそれを刻んだうえで、今日の活動を始め、終えているか？

★市民活動は自分たちの活動の意義を明確に意識して進めていくべきだとの趣旨と理解しました。

◎2020年の世界、日本は？

ー中国のGDPは、日本よりいくら多い？

ー原油、鉄、レアメタルなどの価格は？

ー日本の国民一人当たりのGDPは何位？

ー日本の高齢者率は？

ー国債の残高は？

ー既存インフラの補修コストは？ 橋、施設、下水道、道路、住宅、上水道、

ー社会保障（医療・介護）費はいくら増える？

ー消費税はいくら必要？

こういったインフラ補修にかかる費用を金額的に把握している自治体は少数の自治体に止まる・・・

◎延長線上で考えるな！

ー日本のGDPが世界に占める割合が最高だったのは？

ー2013年に日本のGDPが世界に占める割合は？

ーでは2019年には？

ー同年、中国のGDPは日本の何倍？

ー同年、ブラジルの一人当たりは、日本のいつと同じ？

ーそれは、韓国のいつと同じ？

◎八王子も、これまでの20年と、これからの20年は違う

1990年～2030年の間を10年ごとに区切って、具体的数値を使って、人口総数、人口構成（生産人口、高齢者率）の変化を見る。

◎ 2020年の八王子市は？

高齢者率、75歳以上の高齢者、生産人口等を具体的数値でとらえてみる。

◎ 八王子市の高齢者・後期高齢者の暮らしは？

2000年～2020年を5年ごとに区切って10の切り口で数値分析、いかにこれから急速に高齢化が現実のものとして進んでいくかを示す。

◎ 八王子市の財政はどう推移する？

市の主な歳入、歳出項目について、2005年度、10年度、12年度、2015年度の具体的数値を示して推移を見る。

◎ まちづくりは、誰のため？何のため？

(いくつかの事例)

- －あいさつのできる関係づくりのため
- －子どもたちの世代が誇りを持って暮らし、働くため
- －災害時などの安心のため

◎ 元気な地域は、人数でなく姿勢が違う

－自分が住み続ける地域の未来のために、本当に大切なことを実現できるように全力を尽くす。

- ・出し惜しみしない
- ・できないフリをしない
- ・あきらめない
- ・「誰かがどうにかしてくれる」なんて甘えない

★「主体性をもって行動することが大事」と理解。

◎ まちの「サバイバル」力をどう維持するか

- －まちの売上高トップ10は、どう変化したか？
- －まちの競争力を、どう維持・向上するか？

◎ 地域産業は狩猟か・農耕か？

◎ 自治会・町内会は、行事を半減して事業＝福祉+経済を。

－自治会・町会の活動を見ると親睦も安全も福祉も「行事」の連続である

⇒ 今後は、「小規模多機能自治」へ！

→ 行政機能の集約化を補い、住民減少・高齢化などに伴い必要度が高まる安全・安心の確保のための「適地適作（策）」型の地域づくりを進める。

－ 一律にではなく、共通の「基本機能」と独自の「魅力づくり」を。

◎協働から総働へ

ー協働（主に行政とNPOの協働）

ー「1対1の業務・責任分担」から「多様な主体による協働」へ

ー「団体の支援」から「(小規模多機能)自治の確立・維持」へ

ーすべての部署・業務が、調達も含めよりよい成果へ

⇒定義・ねらいも、進め方も抜本的に見直す「協働 2.0」へ

地域総がかりで地域を守る。地域の暮らしに合った活動を。

★当該項目については、川北氏のブログにアップされたPP資料#21と下記資料をご参照ください。

・「人類史上、どこも経験したことがない規模の少子化と多老化が、同時に、しかも加速的に進む日本。

課題の本質に向き合わず、先送りを続ける国（政権与党と中央省庁）とは一線を画して、近未来に備えた自治の回復のために、協働の基盤づくりを進めている自治体が相次いで動き出している。

しかし、その現場に伺ってお手伝いしている中で、自治体のいくつかの部署が、その域内のいくつかの団体と、相対契約の形で、年度や業務を区切って行われる協働事業が、散発的・偶発的にしか増えない状況では、地域のくらしや安心を守り抜くまでには、残念ながら至らなそうだと感じている。

もはや、年度や行政組織内の担当（縦割り）を超えて、地域の内外の企業や団体や個人の力を結集し、総力をふりしぼって、地域のくらしと安心を守る段階を迎えていると言わざるを得ない。協働から総働へ。・・・」（IIHOE [人と組織と地域のための国際研究所] 発行 NPO マネジメント第70号-2010.12 特集 地域の総力をふりしぼって、くらしと安心をまもるためにー 協働から総働へ。・・・」の巻頭言から）

・八王子NPO情報マガジンNo.60 2014.5.1（八王子市市民活動支援センター）

<http://www.shiencenter-hachioji.org/citizens/img/tuushin-60.pdf>

★近年、地域マネジメントにおいて協働から総働へという流れが強くなったのではないかと感じていたところでした。まさに川北氏の主張に同感です！

◎島根県雲南市の地域自治組織のすごさ

ー「公民館」から「地域交流センター」へ

・共益的な生涯学習施設から、住民自治の拠点へ

ー多様な主体の「総働」による「小規模多機能自治」

・行政機能縮減を補う「適地適作（策）の地域づくり

・共通の「基本機能」と独自の「魅力づくり」

・最小限の安全・安心をどう維持するか？

・文化・伝統をどう残すか？

・経済的な循環・競争力をどう生かすか？

→年2回の「自慢大会」と課題別「円卓会議」で事例共有

★「RMO（地域運営組織）による総合生活支援サービスに関する調査研究 報告書」（総務省地域力創造グループ地域振興室 平成 26 年 3 月）P23～ に雲南市の事例が掲載されています。（同調査研究は、川北氏が委員を務める研究会によるもの）

◎分散が支えられず、孤立の急増

◎孤から共（協）へ、待・受から動・助へ

◎地域の人口構成を年齢別に把握する

・・・地域経営をするうえで不可欠

◎もう一步踏み込んで考えるために

○当たり前だが、5年経つと、周囲も、自分も5歳ずつ年を取る・・・

◎「若い人」を巻き込むなら・・・

◎行政は総働をどう促すか？

（団体自治偏重から、住民自治充実へ）

○地縁団体は「行事・活動 → 事業」、「役割・運営 → 経営」へ

○行政は「要望を聞いて対応

→ 事業と組織の経営支援：定量情報の提供 + 基盤の整備」

（ → 地域が自ら現状を理解して、小規模多機能化を進める支援を）

◎地域が「自治＝経営」者として自ら現状を知り、小規模多機能化を進めるために
（きわめて重要な量も多いため略）

◎地域の持続可能性を把握するための指標項目案

（市区町村、すべて過去 20 年推移をもとに今後 20 年を予測）

人口、高齢者、税金、歳出、社会状況などに関する 20 数項目が掲げられています。

◎地域の持続可能性を把握するための指導項目案

（集落、すべて過去 20 年推移をもとに今後 10 年を予測）

小さな単位の地域について、人口、高齢者に関する項目のほか主に社会状況に関する項目が 20 数項目掲げられています。

◎小規模多機能自治を進めるロードマップ

（大変重要な項目と思われるので、川北氏のブログにアップされた資料をご覧ください）

【2回目のワークショップ】

<p><u>班で考えるテーマと目標</u> 「2020年の八王子を●●な人（約△人）にとって◇なまちにする！」 （日本一◇なまちに）</p> <p><u>対策と組織別の役割</u> 2020年までに◇できる人を！ 地域・・・人、職場・・・□人増！ ① 育成研修：地域●回 職場□回＝計 XX 回開催 ② 他都市の事例学習会 市行政・・・、自治連・・・ 商工会議所・・・</p>	<p><u>このままでいくとどうなる？</u> <u>その原因・背景は？</u></p> <p>このままでと、○○な人は、▽と▲に困る ・原因は、◇が約・・・足りない。 人材育成の機会がない</p> <p>※他の班の「テーマ・原因・対策」に 質問 + 参加・協力（20分）</p> <p>（余白） 黄色ポストイット（7枚）・・・質問、助言、提案のために使用。</p> <p>赤色ポストイット（3枚） ・紹介します・参加します・提供します等々</p>
--	--

テーブルごとに、皆で意見を交わしながら上記シートを作成し、次に、全員自分のテーブルを離れ、他のテーブルのシートを見て回り、2色のポスト・イットに自分が気付いたこと、意見などを書いて添付していききました。

第一段階で、テーブルごとに出た意見、討議内容が集積され、第二段階で他のテーブルの人たちの意見がさらに重ね合わせられていくこととなります。いくつかのテーブルを回ってみましたが、皆さん作業時間が15-20分だったにも関わらず、結構多くのいろいろなことが書かれていました。

講演のテーマ・内容、イベントの作り方、いずれについても大変得るところの多い企画でした。

（文責：NPO小平市民活動ネットワーク理事 福井正徳）